

# 仏像盗難 困った



防犯カメラで盗難対策する都内の寺

仏像などの文化財の盗難被害が後を絶たず、管理する寺院や住民らが防犯対策に苦慮している。文化庁の調査では、国の重要文化財指定を受けた仏像など美術工芸品109件が所在不明で、うち約3割が盗難によるものだった。費用面から十分な対策ができないケースも多く、所有者らは「自分たちだけでは限界がある」と話す。

## 費用高く対策に限界

狙われる「無人」  
「コンクリート製の倉庫で安心していたのに……」。2010年に国指定の重要文化財「木造大日如来坐像」が盗まれた大阪府能勢町の今養寺。住職は長く不在。代わって管理に携わってきた近所の男性（69）がやるせない表情で話した。

檀家ら近隣住民で費用を負担して約25年前に倉庫を新設した。しかし扉に2カ所付けた鍵はパールのようなものでこじ開けられていたという。「普段の雰囲気から、無人で警備が甘いと見抜かれていたのではないか」。4年たった今も仏像の行方は分からない。寺には府指定の文化財もあり、事件後に監視カメラを設置するなど警備を強化している。ただ「地域の

宝」は自分たちで守りたいが、どうしても限界はある」のが実情という。文化庁が7月に発表した調査で所在不明と分かっていた国指定文化財の美術

工芸品109件のうち盗難は33件。多くは仏像や刀だ。文化財所有者が加盟する全国国宝重要文化財所有者連盟（京都市）の担当者は「見た目が美しい仏像や刀は売買の対象になりやすく狙われやすい」と話す。

数年前から続く仏像ブームもあって取引価格は高騰しているといい、一部はプロカーを介して

海外に流出している可能性もある。寺社の防犯業務を手掛けるセキユリティハウス・センター（京都市）の担当者は「プロに狙われれば、個人レベルの管理では守り切れない」と指摘する。所有者は増加傾向にあるという。

**補助金「活用を」**  
東京都内のある寺は約10年前から赤外線センサーや防犯カメラを順次整備。総額700万円以上かかったが、副住職の男性（53）は「今年に数回は（さい銭などの）盗難未遂が起こる。これくらいしないと防げない」と話す。ただこうした設備投資ができる寺はごく一部だ。

文化庁によると、所有権自体は寺社などにある。そのため、管理はあくまで所有者が行うのが原則。国指定文化財の防犯を目的にカメラなどの設置費の一部を補助する制度があるが、毎年の申請は10件の程度にとどまる。「『国の宝』を守るために積極的に活用してほしいが、『そんな余裕はない』と言われることは珍しくない」（同行担当者）という。